

みんなで育てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱい森

能ヶ谷西緑地だより

2025年2月1日号 298号 能ヶ谷西緑地・樹の会

【2月の予定】

- ◆2月8日（土）（雨天翌日）
・階段補修
- ◆2月22日（土）（雨天翌日）
・花広場整備
* 9:00 現地集合（9:00～11:30）
- ◆2月1日（土）（10:00～12:00）
・ヤマユ連・手作りカフェー
平和台集会所
問合せ：伊藤（735-8623）
どなたでも参加自由です。
作業には汚れても良い服装でおいでください。



※※※※※※ 緑地だより ※※※※※※

【緑地に実る】 オモト（万年青）



キジカクシ科オモト属ですが、ユリ科に分類されることも。日本原産の多年草で、宮城県を北限に本州、四国、九州で自生しています。

万年青と書き、縁起の良い植物として古くから珍重されました。春に淡い黄緑色の花を咲かせ、その後鮮やかな赤い実をつけます。（長谷部）

1月11日（土） 晴 参加者9名

今年初めての緑地作業です。花広場に行く階段の登り切ったところにあった大木の除去と花広場全体の落ち葉を集めて、腐葉土にするための作業でした。

昨年市役所が切り倒してくれた木を、チェーンソーで運びやすい大きさに切って運び出しました。気になっていた木がやっとなくなりました。

落ち葉集めは、まず熊手で集めて青シートに乗せ、2か所に運びました。踏み固めてシートをかぶせ、早く腐るようにします。

整理体操の後お茶にして、散会しました。（設楽）



赤いサルノコシカケ

1月25日（土） 曇り後晴れ 参加者9名

今日は中央広場の北側急斜面の草刈りをした。刈払い機と手刈りでアズマネ笹を刈り始めたが、昨年の猛暑を乗り越え、この冬の寒さに耐えている笹は硬く絞まっており、ザックザックと簡単に刈り取れるものではない。しかも傾斜がきつく、足場が悪いので安全を確保しながらの作業だった。

この北斜面は隣接地の樹木や竹に覆われ、日光が殆ど射さない日陰地で、湿気も多い。だが、緑地の他の場所では見ない「ニシキギ」や「吉祥草」「ヒイラギ南天」や「白花タツナミソウ」が健気に育っている。

途中で休憩しながら、この冬枯れの樹は何だろう等と悩むのもまた緑地保全作業の楽しさかもしれない。きつく結んだ蕾や葉の無い枝を観察するには、今が絶好の時期です。皆様どうぞ観察にいらして下さい。（かつた）

ニシキギの実（写真提供：勝田さん）

【緑地を楽しむ本】

『こちょこちょ もこもこ ぶわわわわ』
ちいさなかがくのとも 2024年11月号

竹村東代子 さく
福音館書店



初冬の田んぼ。女の子が見つけたのは、「ぼうに ささった ソーセージ？」・・・実は「ガマの穂」。

こちょこちょさわるとふかふかのソーセージから、もこもこと何かが出てきて、ぶわわわわと綿あめのように爆発！ガマの綿毛・タネです。付録の解説によると、穂の長さ10センチメートルあたりに約10万個も入っていると。ただ、そんなに飛んでいっても、どこもかしこもガマだらけにならない、ということは、新しい水辺にたどりつくチャンスは決して多くない、ということ。なかなか生きていくのは難しいようですね。

私はまだ触ったことがないので、いつの日かチャンスがあれば爆発させてみたいです。（本の注意書きに「水辺や湿った地面に生える植物なので、近づくときは足もとの安全にお気をつけください。また種を飛ばすときは、周囲にご配慮ください。」とあります。）

この絵本では、風に乗って空いっぱい飛んでいく綿毛は、和紙を切り抜いて表現されています。綿毛の繊細さと立体感が伝わってくる素敵な絵になっています。

（遠藤）

【緑地の樹】

シラカシ（白樺）

ブナ科コナラ属の常緑高木

緑地の斜面に一番多いのがシラカシではないでしょうか。あまりに当たり前すぎて、今まで紹介されなかったのかもしれない。

右の写真は、桜広場から花広場に行く途中の山道で、シンボルツリーのように堂々と立っているシラカシです。でも、この木に気づいている人はいないのではないのでしょうか。四季による変化がほとんどなく、いつも青々としています。同じドングリ仲間のコナラやクヌギだと、冬は落葉して周りが明るくなり、春には芽吹きが美しいのですが、シラカシは・・・。林床が暗くなり、早春の花々が咲きにくいのですね。

だから、私たちの気持ちはどうしてもコナラ・クヌギに肩入れしたくなります。でも、シラカシはきっと「僕たちは冬でも立派に光合成して地球環境に貢献しているんだよ、もっと評価してよ。」とぼやいているのかもしれないね。

（小川）



シラカシのドングリで
ドングリ虫を作りました